

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度第3回相模原市子ども・子育て会議				
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315(直通)				
開催日時		令和元年10月1日(火) 午後6時から8時30分				
開催場所		相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室				
出席者	委員	14人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	21人(こども・若者未来局次長ほか20人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	4人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の答申について (2) 相模原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について 4 その他 (1) 市立児童クラブ運営に係る育成料等の見直しの方向性について 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

## 1 開 会

## 2 あいさつ(こども・若者未来局次長)

## 3 議 題

### ( 1 ) 第 2 次相模原市子ども・子育て支援事業計画の答申について

- 今回、SDGsの項目を新たに加えたことについて、その考え方の説明が事務局からあったが、大事な考え方であり、各委員にも御理解いただけたと思う。
- 本日から幼児教育・保育の無償化が始まったが、園では今まで1号認定であった就労をしている保護者が、同じく無償であれば2号認定に変更するといったケースも多くみられる。そのような無償化の影響を見込んで、量の見込みの数値は設定しているのか。

無償化の影響による1号及び2号認定の数値の変化については、統計的なデータがまだ取れていないため、現在のところ数値への反映はできていない。計画には中間年の見直しの機会があり、その時点では2年間分の傾向が分かるので、中間年の見直しの際に反映することを考えている。

- これまでの会議において、とても熱心に多くの意見をいただいたことに感謝申し上げます。本日、答申をさせていただくが、引き続き市民の皆様の思いを伝えさせていただくことや、この計画の状況を見守っていただきたいと思っている。これからの5年の期間のなかで、より良い相模原の子ども・子育ての環境が整っていくことを期待している。

第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について、会長から市へ答申した。

### ( 2 ) 相模原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について

- 利用者支援事業の詳しい内容・定義や、待機児童数が近隣市と比較した場合にどのような状況なのか伺いたい。また、児童クラブの4年生までの年齢拡大に向けた取組は進めていただきたいが、その目的は何か。

利用者支援事業については、基本型・特定型・母子保健型の3つのタイプがある。本市の場合は、保育所等の利用調整に特化した特定型としての保育専門相談事業を実施しており、すくすく保育アテンダントを各区子育て支援センターに配置して、保育所等の情報提供や利用調整を行っている。本市の平成31年4月1日現

在の待機児童数は8人であった。県内では待機児童ゼロの市もあるものの、人口規模からすると比較的少ないと思われる。児童クラブの4年生までの年齢拡大については、現在は原則3年生までの受入れとしているが、4年生以上についても一定のニーズがあるため、3年生までの待機児童が発生していない児童クラブにて各区1箇所ずつ、モデル実施として4年生までの受入れを行っている。今後、高学年の受入れを推進していきたいが、3年生までの待機児童が発生しているなかでは、まずは3年生までの受入枠の拡大を優先していく考えである。

- 地域子育て支援拠点事業については、実施団体の相互の連携が持てるように情報共有や協議の場を充実することで、地域の子育て支援の力を強めることができると思う。また、保育園等も含め、様々な場所で子育て広場事業を実施しているが、情報発信が個々であるため、それぞれの媒体から情報を得なければならない。利用者を増やすこと、また、支援が必要な家庭に情報が行き渡るように、広報のあり方について検討が課題であると感じるが、見解を伺いたい。

実施団体相互の連携については、情報交換会等の会議を増やすなどの取組を実施している。また広報については、市ホームページ及び広報さがみはらへの掲載や毎年11月の保育ウィークのお知らせにて周知を行っているが、さらなる充実を図るために、広報媒体やその方法の検討をしていきたいと考えている。

- 伊勢丹相模原店が本年9月末で閉店となったが、店舗内で実施していた子育て広場「たんと」は今後どのようなようになるのか。

子育て広場「たんと」は、本年10月21日から相模大野中央公園のパークハウス内に移転をして実施する予定である。近距離のため、現在の利用者が引き続き利用することを見込んでいる。移転前にも利用者等に対して周知を行っているが、今後も広報等によりさらなる周知に努めていく。

- 子育て広場は、保育園やこどもセンター、地域の団体等、様々な場所・内容で行っていて、同じ「子育て広場」という名称で実施しているため、多くの情報を得て利用者が行きたい場所を選ぶことができる。一方で、把握しきれない部分もあることや、同じ日に実施日が重なっている場合などには、人が集まらないといった状況も生じている。

- 国の補助事業であるか否かに関わらず、利用者にとっては子どもと豊かな時間を過ごせることが重要なので、保育の利用調整の際やホームページ等での案内を充実させて、利用しやすいようにしていただきたい。

- 教育・保育の需給計画については、待機児童の発生している区であっても、区全体をみると、定員を割っている人数が非常に多く、市全体では4,500人近くの定員の余剰が生じている。同じ区であっても地域の偏りがあることが要因であると考えられるが、待機児童が減ってきているという状況があるのならば、新

設園を認可する際には、その地域性やバランスを考えていかないと、いずれは保育需要が少なくなつて、事業者が倒れてしまう事態にならないかと懸念している。

地域性や年齢別の保育需要の差は確かに生じており、新設園については待機児童が発生している地域に限定して募集をしている。市の人口は今年度をピークに減少する見込みであるが、しばらくの間は、保育需要は増加するであろうと考えている。しかしながら、5年、10年と将来を見据えるにあたっては、増加が見込めなくなることも考えられるので、今後は新設園の設置ではなく、既存の施設を活用した待機児童対策も検討していかなければならない。

- 人口減少の話があつたが、今後市の発展や定住が図られることもあるのではないかと考えており、市はどのように考えているのか。また、教育・保育の需給計画について、昨年度との比較や今後の見込みなど、何か特徴的なことがあれば伺いたい。

本市では、これからどのように市を発展させていくかというプラン「相模原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定している。また、市総合計画についても改定時期を迎えており、今後市の人口は減少傾向にあるけれども、そのペースを少しでもなだらかにしていこうという考えのもと、次期計画を策定している。保育需要については、子どもの数が減少しているにも関わらず、女性の就業率の上昇等が要因となり増加し続けているが、いずれはピークから減少に転じるはずなので、今後は地区別や年齢別の傾向などを細かく把握し、それに合った施策を考えていかなければならないと思っている。

- 数字の分析ももちろん大事だが、人を呼び込めるような魅力的なまちづくりのアイデアも必要である。各委員が考えをお持ちであれば、ぜひ伺いたい。
- 子育て広場を運営している中で感じることは、利用者の多くは「お客さん」としての意識で来られているので、自分たちで何かを実施したり、発信していくような力をつけてあげることができないかと考えている。高齢のスタッフが多く、後継者を育てることも必要ななかで、お世話になった場所に今度は自分たちがスタッフとして関わっていきたいという気持ちになってもらえたらと思い、声掛けなども行っている。保護者同士がグループや仲間づくりをしていけるような意識づくりや環境づくりも必要だと思っていて、友達同士でお互いの子どもの面倒を見あえるような関係性が広まっていくとよいと思っている。
- 共働き世帯も増えており、地域活動に参加しづらい保護者の方も多くなっている。地域で暮らし、子どもを育てていくなかでは、そのバランスをどのようにしていくかも課題である。家庭のみの問題ではなく、持続可能な社会、持続可能な市をというSDGsの考え方に沿って取組を進めていけるとよいと思う。
- 学校では、同じ市内であっても地域によっての過疎・過密化が加速していると

感じる。働いている保護者は、交通の便がよい駅の近くに引っ越してくるので、その地域では子どもを預けられる場所がさらに必要になってくる。また、小学校は特に女性教員が多いことから、育児休業を取得する教員も多いが、人材不足のために代替教員の配置ができない場合もある。さらには、3年間育児休業をとれる制度があっても、保育所は1歳未満が入りやすいために、すぐに復帰しなければならない現状もあったり、保育所の入所の可否が判明する時期が2月頃になるので、翌年度の学校の人事配置を考えるにあたって苦慮したりといった、子育てに関する部分での様々な問題も生じている。

- 要保護児童対策地域協議会について、児童虐待の通告件数が増加してきているなかで、その役割は非常に重要であると考え。予算・決算額が減少しているのが気になるので、しっかりと継続して行ってほしい。

予算・決算額は減少しているものの、協議会の委員に医師を加えるなど、内容は充実している。また、本市の児童相談所については、職員数を毎年増員して児童虐待の通告等に対応している。

#### 4 その他

##### ( 1 ) 市立児童クラブ運営に係る育成料等の見直しの方向性について

- 改定案については、利用者負担の割合を変更するのみで、児童一人あたりの財源は増加しないのか。

質の向上に向けた取組を推進するため、具体的な金額は未定であるが、一人あたりの財源も増加する予定である。

- 施設の形態や指導員の加配等によっても異なることから、全体的な金額が示せないことは理解もするが、具体的な数値が示されないと意見をすることは難しい。民間の児童クラブにおいては育成料のばらつきがあるなかであっても、子どもたちを均等にみることができると、また、保育内容を充実していこうと考えており、市立の児童クラブの内容を踏まえ、どのくらいの経費が必要なのかということも考えていかなければならない。

- 改定は、具体的にどの時期を見込んでいるか。

早くても令和3年度、もしくはそれ以降となる見込みである。

- 他市と比較すると、本市の育成料は安価なのか。

金額で見ると、政令指定都市では1万円以上の市もあれば無料の市もあり、本市は中間程度となる。国は、利用者負担を半額とした運営を基本的な考え方として示しているため、本市もそれに準じて育成料を設定したいと考えている。

- 現状では延長料金がかからない午後6時間際にお迎えに来る保護者も多いと思う。改定案では、開設時間を見直して、延長料金がかからないようにすると

のことだが、お迎え時間が午後7時までに遅くなると、待たされる子どもの気持ちはどうなのかと心配になる。また、小学校低学年は午後9時頃に就寝することが理想であるが、帰宅時間が遅くなれば、それにより夕飯、入浴、宿題の時間も遅くなり、睡眠時間や生活習慣にも影響してしまうのではないか。

- 働く保護者の実情を考慮して、延長料金の廃止を検討しているとのことだが、延長利用者が多いなどの何か具体的な理由があるのか。

子どものことを考えると、少しでも早く保護者にお迎えに来てもらえるのが良いが、共働き世帯が多くなり、保護者から午後6時までのお迎えが時間的に厳しいという意見をかなりいただいている。平成30年度の延長の利用人数は、月あたり約7千人、1施設での1日平均は5人程度となっており、数は多い状況となっている。

- 子ども目線の考え方はとても大事である。障害をもっている不登校の子どもの相談をよく受けるが、行きたがらなければ、無理に行かせなくてもよいのではないかと思っている。行きたくない学校へ行って、2次、3次の障害や引きこもりになってしまうよりも、家で外へ出るエネルギーを蓄えて、きちんと子育てをしていけば問題ないし、社会にとってもプラスになる。そのためには、保護者の子育ての力を高めていくことや、保護者をサポートしていく人も必要だと思う。

- 幼稚園に関しては、あえて長時間預からずに、家庭と連携しながら子育てや保育をしていこうという園もある。そういった園に対しても支援をする必要があると思うが、本市は子どもを長時間預かる園を優遇しており、子ども・子育て支援事業計画においても市議会での職員の答弁においても、それを良しとする傾向が感じられる。

- 保育園についても、1歳を迎えてから預けると待機になってしまうために0歳から預けていたり、点数が下がってしまうために週5日で働いたりといった、保育園の事情にあわせて、仕事復帰をしている保護者が多くなっている。今回の児童クラブの改定案についても、こどもセンター等が子どもたちでいっぱい現状があるなかでは、施設が対応できるのか、予算があるのかといった、可能な方策をまず考えてからでないか難しいと思っている。それから、働く保護者は、本当に大変な思いをしてお迎えに来ているのがよく分かるが、長時間預けられている子どもは、けんかなどのトラブルを起こしやすい傾向にあり、寂しい思いをしているのだろうなと感じている。他市との比較というよりも本市の特色や大事にしなければならないことについて、もっと考えてもらいたい。

- 保育園では、長時間保育が必要な家庭もあれば、短時間だけの家庭もあり、それぞれの子どもに合った質の高い教育・保育を実施するというを大切に

していきたいと考えている。そのためには質の高い人材が必要となるが、児童クラブは勤務時間帯が午後から夜間になるため、人材確保が非常に難しい状況がある。体制の充実のためには、それを支える人材をどのように確保していくのか、そのための費用がどの程度必要なのかといったことをよく検討してもらい、育成料を改定した分がどこに使われていくのかを明確にしてもらいたい。

- 働く保護者の現実と、子どもたちの気持ちを考えるなかで、様々な意見をいただいた。時間がかかることかもしれないが、今出来ることからでも取組を進め、必要な人に適切な支援の手が届くようにしていただきたいと思っている。

## 5 閉 会

## 相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
1	片 山 知 子 元 和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
2	川 上 孝 生 相模原市立小中学校長会	出 席
3	木 村 徳 泰 日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	出 席
4	笹 野 和 子 公募市民	出 席
5	園 田 巖 東京都市大学人間科学部准教授	出 席
6	中 島 清 美 公募市民	出 席
7	中 台 厚 相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
8	永 保 貴 章 一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
9	西 谷 八千代 みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
10	馬 場 眞由美 相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
11	藤 井 春 美 相模原市学童保育連絡協議会	出 席
12	松 原 充 子 特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
13	三 浦 友 則 相模原保育室連絡協議会	出 席
14	村 瀬 麻衣子 一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	欠 席
15	山 崎 和 正 相模原商工会議所	出 席

会長      副会長